この学校では、こんな学びが始まる

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

“海事都市”今治から、造船×GX・DXで海事産業をけん引

愛媛県立今治（いまばり）工業高等学校

全日制／工業科

類型1

この改革が必要な背景

- 国において、**造船は重要な戦略分野**の一つに位置付けられており、**日本最大の海事都市である今治市**には、今後の海事産業を支えていくことが期待されている
- 一方、**地域産業の求人倍率は25.1倍**と高く、人材不足が深刻化していることから**次世代の海事産業を担う若手の育成**が課題

事業概要（学びの変化）

「今治ものづくり学」で造船の基礎から最先端事例まで学習

- ✓ 既存の造船コースを独立した**海事探究科（定員40名）へと拡充**し、さらに**専攻科（今治イノベーションアカデミー）を設置**し、高度職業人材を育成
- ✓ 全科共通の学校設定科目**「今治ものづくり学」**を新設し、船舶の構造・材料、動力・エネルギー、流体・性能、制御・ICTを体系的に学習
- ✓ ロボットやAIなどを活用した**造船現場の改善**ケースにも取り組み、課題発見から次世代の造船技術の実践まで応用学習

「ラーニング・ドミトリー」で地域・国内外交流

- ✓ 多機能型学習・宿泊施設（ラーニング・ドミトリー）を設置し、**放課後や休日**においても、**資格取得指導**や**学習支援、企業技術者による講話**を継続的に実施
- ✓ **インターンシップ生**や**全国募集による体験入学参加者**に加え、**海外からの留学生**等の受入れにも対応し、多様な背景を持つ人々が集い交流し合う多文化・多層的な教育環境を確保

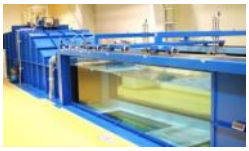
大学・企業と連携した実習でオール工学的スキル習得

- ✓ **愛媛大学や地元造船・舶用工業企業と連携**し、**合同実験や実技指導、インターンシップ**を実施
- ✓ 船舶エンジンや発電機の制御盤等を用いることで、実践的演習に取り組む
- ✓ **企業の熟練技能者（造船エキスパート）の「技」**を直接学び、最新デジタル設備で複雑な技能を可視化・体系化する高度な実習を実施

<生徒の1日の流れ（例）※海事探究科３年Ａさん>

【9:00】
回流水槽実験室にて、船体まわりの流場や船体に働く流体力の計測実験

【11:00】
水槽試験分析室にて、船体まわりの水の流れ、舵やプロペラ付近の流速分布、渦の発生、乱流やはく離の観察・計測



【15:00】
流体講義室にて、船体まわりの水の流れについて、実験結果等をまとめ、発表及び評価

高校生の未来の姿（指標の例）

	（現状）	（R10）	（R13）
・専攻科及び大学工学部等への進学者数	1人	⇒ 10人	⇒ 15人
・造船・舶用工業企業への就職内定者数	23人	⇒ 30人	⇒ 40人

他校への普及方策

整備した造船実験・実習施設を「県域オープンラボ」として大学、企業、工業高校等での人材育成に活用等

主な連携機関

今治造船㈱、BEMAC㈱、㈱新来島どっく、今治市、愛媛大学　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成